

市民の声

～行方市によせる想い～

行方市によせる想い



鈴木 啓一
(五町田)

新しい市誕生から一年と二カ月が経過しました。その間市政を司る三役も決定し、それぞれの市役所の役割分担、配置にも少しずつ慣れてき

たところ。私達市民はいいま
すと、別段変わる事無く日々の営み
を続けています。

人口約4万人、うち有権者数3万
3千人、つまり19歳以下は7千人と、

高齡化が進み(日本全国同様のよう
ですが)日中は高齡者の方が多くな
つてしまうという地区もたくさんあ
ると思われま。風光明媚な行方市
で何事も無く、平和に安心して生活
が出来ることが一番良いことです。こ
れからも一部に偏らず誰にも等しく

行政の目の届いた生活を送れるよう
にしたいと思っています。各
世代で今後も格差の無い教育や、福
祉を受けられるよう希望します。

私達市民は、行方市(行政)が、
何をしてくれるのかではなく、行方
市(郷土)のために何が出来るのか、
何をすれば良いかを時々思いながら、
たまには実践して日々を送る事が
出来れば、この自然豊かな行方市が
益々発展することになると思います。

行方市に望むこと



原 喜美子
(山田)

先日、知り合いから誘われて、行
方市のボランティア連絡協議会の設
立総会に参加しました。「どんな方々
が参加なさるのかな？」と思いな

がらの参加でしたが、麻生・玉造・
北浦からのボランティアさんが多数
参加されており、行方市全体ではこ
んなに多勢の仲間がいるんだなあ…
という思いがいたしました。しかし、
旧他町のボランティアさんとは一言

の会話もなく、帰りの車の中で何か
淋しい思いをも味わいました。やは
り、同じ市民意識をもって会話を弾
ませることが出来るのは、これから

であり、みなさんとのふれあいのな
かで育んで行く必要があると強く感
じました。

これからの行方市、ボランティア
だけではなく、福祉面やすべてにお
いて、旧三町民意識から早く抜け出
して同じ市民としてうちとけ合い、
誰でもが心通い合う和やかな行方市
であって欲しいと望んでいます。

行方市によせる想い



根崎 良文
(西蓮寺)

その昔、『人生わずか50年』と言
われておりましたが、私自身、その年
齢にまもなく到達するこの時期に、
太平洋戦争終戦までの半世紀、日本
が統治した台湾に行く機会を得るこ

とができました。街の随所に大正期
や昭和初期の建築物を散見すること
ができ、異国の地において、戦前の
美しい日本への郷愁さえも強く感じ
たところがございます。

さて、わが市も半世紀慣れ親しん
だ町から巢立ち、誕生からはや一年
を経過しました。

今後は、よりローカルなものに目
を向け、『ここにしかない』眠れる
財産・宝物を見出し出していくことが

重要であり、美しい国づくりも、こ
れらの豊かな故郷づくりのもとに成
り立つものと考えます。

もうすぐ近隣の百里から夢を乗せ
た一番機が飛び立ちます。外国人が
西蓮寺の苔むした石段を登っていく
姿を見かける時が、また到来するか
もしれません。これから50年『いつ
でも夢を』持ち続けていきたいもの
です。

編集後記

稲刈りも終わり、一息
ついている今日この頃か
と思います。

今年は、やや不作とい
うことでしたが、皆様のところはいかが
でしたか。

さて、行方市も合併して1年が経過し
ました。先日の第三回定例会において、
平成17年度の決算等が審議されました。
その中で様々なところに、まだまだ旧3
町の垣根が残されていると感じました。
それらを少しずつ低くして、早く取り除
くように、皆様と一緒に考えてい
かなければならないと思いました。

また、「合併して不便になった」とか
「良くなったところが何も無い」という
声も聞こえてきます。

財政難の折、要望に応じていくのは、
困難なところも多々あるとは思いますが、
皆様と共に知恵と力を出し合って、少
しでも早く「合併して良かった」と感じら
れる行方市を創りあげていきたいと思
っています。

次回の定例会は、12月に予定されてい
ます。ぜひ傍聴にお出でください。お待
ちしております。

広報委員会

- 委員長 寺内 泰俊
- 副委員長 松兼 幸蔵
- 委員 平塚 文雄
- 委員 根崎 勇三
- 委員 吉藤 恵一
- 委員 小林 久

(庄司茂美)

